

## 近衛府下級官人補任稿

— 将監（4）・将曹（1）・医師・府掌 —

西山史朗

## 〔抄録〕

本稿は、天平神護元年（七六五）から十三世紀半ばの期間における近衛府の将監・将曹・医師・府生・番長・案主・府掌・近衛の官人の補任状況を調査・整理したものの一部である。

一部の近衛府官人の補任状況はすでにまとめられているが、本補任表は既存の補任類の欠を補い、研究の進展の助けとなること

を目指しており、本稿では、近衛府下級官人補任全体のうち、将監・将曹（一部）・医師・府掌の補任状況をまとめている。

キーワード 近衛府、下級官人、補任、平安期、鎌倉期

## 一、近衛府下級官人補任について

近衛府下級官人補任稿は、近衛府が成立した天平神護元年（七六五）から十三世紀半ばにおける近衛府下級官人（将監・将曹・医師・府生・番長・案主・府掌・近衛）のうち、確認できうる補任状況を調査・整理し、順次公開するものである。<sup>②</sup> 本稿では将監（採録期間…寛元元年〔一二四三〕～宝治二年〔一二四八〕）、医師（採録期間…承和二年〔八三五〕～寛元二年〔一二四四〕）、府掌（採録期間…元慶五年〔八八一〕～建久九年〔一一九八〕）、将曹（採録期間…神護景雲元年

〔七六七〕～天仁二年〔一一〇九〕の順に掲載する。なお、将監、医師及び府掌の補任稿は本稿をもって完了とするが、<sup>④</sup> 将曹に関しては、紙数の都合上、次号以降に続載する予定である。

## 二、凡例

① 本補任稿は左右近衛府のうち（表①）、将監・将曹・医師・府生・番長・案主・府掌・近衛の下級官人の補任状況を官職ごとの項目に記したものである。そのうち本稿は、寛元元年（一二四三）から宝治二年（一二四八）までの将監、承和二年（八三五）から寛元二年

（二二四四）における医師、元慶五年（八八二）から建久九年（一九八）における府掌、そして神護景雲元年（七六七）から天仁二年（一一〇九）における将曹を掲載する。

②左右近衛府いずれかに所属しているかが不詳の場合は、「左右不詳」の項目に記した。

③人物の表記について、位階が明らかである場合は〔内に記載し、位階が不明の場合は〕と記載した。加階の記述がある場合は加階後の位階を記載、備考にその内容を記載した。府生以下には、本来相当位階の規定は設けられていないが同様に記載した。

④在職である、或いはそう思われる場合は「在」、新たに任じられた場合は「任」、すでに死去していることが明らかである場合は「故」を備考欄内の先頭に記載した。

⑤兼官、兼職がある場合は備考に記載した。その他必要と思われる事項を備考欄に記載した。

⑥出典の記載は（『史料名』年月日）で示し、閏月は○枠で示した。基本的にその年の初見月日を記載したが、初見月日以降より詳細な所属、経歴などの記述が確認できる場合はその月日を記載した。

⑦それぞれの出典は（ ）内に記載し、また一部の史料名については次の通り略記した。なお、古記録の名称について大日本古記録、増補史料大成、史料纂集等にも収録されている古記録は、それぞれの名称をそのまま記載した。『群書類従』や『歴代残闕日記』、そのほか史料紹介等に収録、掲載されている古記録の名称については、同一人物の日記でも、広く周知されている名称とは別の名称で記載さ

れることがある。その場合は基本的に記主の名前を冠する名称に統一した。また、前述の大日本古記録、増補史料大成、史料纂集、その他刊本の書誌情報の記載は省略したが、史料紹介等の書誌情報は適宜注に記した。

略記一覧…『古今和歌集目録』（『古今』）、『古今著聞集』（『著聞』）、『平安遺文』（『平遺』）、『楽所補任』（『楽所』）、『外記補任』（『外記』）、『大間成文抄』（『大間』）、『魚魯愚鈔』（『魚魯』）、『賭弓部類記』（『賭部』）、『仙洞御移徙部類記』（『移徙』）、『御讓位記』（『讓位』）、『九条家本紙背文書集 中右記』（『九中』）、『類聚国史』（『類国』）、『政事要略』（『要略』）、『朝野群載』（『朝野』）、『朝野群載抄』（『朝群抄』）、『続左丞抄』（『左丞』）、『類聚符宣抄』（『符宣』）、『本朝世紀』（『世紀』）、『日本紀略』（『紀略』）、『続日本紀』（『続紀』）、『日本後紀』（『後紀』）、『続日本後紀』（『続後紀』）、『文徳天皇実録』（『文徳』）、『日本三代実録』（『三代』）、『吏部王記』（『吏部』）、『村上天皇御記』（『村上』）、『親信卿記』（『親信』）、『御堂関白記』（『御堂』）、『小右記』（『小右』）、『定家朝臣記』（『定家』）、『土右記』（『土右』）、『水左記』（『水左』）、『江記逸文集成』（『江逸』）、『為房卿記』（『為房』）、『時範記』（『時範』）、『中右記』（『中右』）、『中右記部類』（『中部』）、『寛治二年記』（『寛治』）、『後二条師通記』（『師通』）、『栄昌記』（『栄昌』）、『師元朝臣記』（『師元』）、『実行公記』（『実行』）、『長秋記』（『長秋』）、『雅実公記』（『雅実』）、『山槐記』（『山槐』）、『兵範記』（『兵範』）、『明月記』（『明月』）、『三長記』（『三長』）、『猪隈関白記』（『猪隈』）、『岡屋関白記』（『岡屋』）、『民経記』（『民経』）、『葉黄記』（『葉

黄二、『平戸記』（『平戸』）、『経俊卿記』（『経俊』）、『妙槐記』（『妙槐』）、『吾妻鏡』（『吾妻』）

⑧本補任稿作成にあたっては、笹山晴生「左右近衛府官人・舍人補任表——下級官人・舍人その（一）——」（『東京大学教養学部人文学科紀要』六一、一九七五）、「左右近衛府官人・舍人補任表——下級官人・舍人その（二）——」（『東京大学教養学部人文学科紀要』六六、一九七八）も参照している。

⑨人物比定について、史料上では、姓或いは名が同名同音の場合、人物の混同が考えられる事例がみられる。このような事例や姓名いずれかの記載が無い場合、例えば刊本では編纂者によって人物ならびに姓名の同定・推定がなされているが、疑問無しとしない部分もある。よって本補任稿では『群書系図部集』<sup>⑩</sup>、「樂家系図」<sup>⑪</sup>及び京都大学附属図書館所蔵『下野氏系図』・『秦氏系図』所収の諸氏系図、『平安人名辞典——長保二年——』<sup>⑫</sup>、『平安人名辞典——康平三年——』<sup>⑬</sup>上・下、『平安時代史事典』<sup>⑭</sup>等も参照して姓名の推定を行い、備考欄にその旨を記載した。

⑩史料上、「〇〇子」、「〇〇男」と表記され、人物比定が困難なものは、人物欄中に「〇〇子」と統一して表記した。

⑪人物によつては数年以上にわたり近衛府官職に在職していることが確認できるが、その間一部の年において人名の記載は有るものの官職が確認できない例が散見される。この事例においては、前後の時期における在職状況から官職の推定は可能である。しかし十二世紀後期には、同一の近衛府下級官人が降格、昇進を繰り返す事例も一

部見受けられるようになるため、本補任稿ではあえて採録していない。また、近衛府下級官人であることは判明するものの、職が不明な場合も同様に採録していない。

⑫史料上には「左近大夫」・「右近大夫」と「大夫将監」の表記がみられる。通常、前者は叙爵後将監を離職した者、後者は叙爵後も在職している者を指すと理解される。ただし古記録を中心に、厳密に両者を区別しにくい事例も数例みられるため、便宜上「左近大夫」・「右近大夫」も採録した。

## 〔注〕

（一）本補任稿では、将監以下の近衛府官人を近衛府の下級官人と区分している。この区分は笹山晴生氏による近衛府大将・中将・少将を上級官人、近衛府将監以下を下級官人とする理解に従ったものである。詳しくは笹山晴生「平安前期の左右近衛府に関する研究」（坂本太郎博士還暦記念会編『日本古代史論集』下所収、吉川弘文館、一九六二）、同「左右近衛府上級官人の構成とその推移」（土田直鎮先生還暦記念会編『奈良平安時代史論集』下所収、吉川弘文館、一九八四、以上『日本古代衛府制度の研究』（東京大学出版会、一九八五）再収）を参照。

（二）近衛府官人の補任状況をまとめたものに、笹山晴生「左右近衛府官人・舍人補任表——下級官人・舍人その（一）——」（『東京大学経学部人文科学紀要』六十一、一九七五）、同「左右近衛府官人・舍人補任表——下級官人・舍人その（二）——」（『東京大学経学部人文科学紀要』六十六、一九七八）、市川久編『近衛府補任 第二』（続群書類従完成会、一九九二）、同『近衛府補任 第二』（続群書類従完成会、一九九三）がある。本補任稿はこれらの補任類を参考として、その欠を補うかたちで作成している。

(3) 拙稿「近衛府下級官人補任稿（1）」（『佛教大学大学院紀要——文学研究科篇——』四六、二〇一八）、「近衛府下級官人補任稿——府生

——（1）」（『鷹陵史学』四四、二〇一八）、「近衛府下級官人補任稿

（2）——将監——」（『佛教大学大学院紀要——文学研究科篇——』

四七、二〇一九）、「近衛府下級官人補任稿——府生——（2）」（『鷹

陵史学』四五、二〇一九）、「近衛府下級官人補任稿（3）——将監

——」（『佛教大学大学院紀要——文学研究科篇——』四八、二〇二

〇）、「近衛府下級官人補任稿——府生——（3）」（『鷹陵史学』四

六、二〇二〇）。なお、近衛府下級官人補任稿の作成意図ならびに近

衛府や近衛府下級官人に関する先行研究は、上記拙稿において言及し

ているためそちらを参照されたい。

(4) 近衛府下級官人の補任状況は十三世紀末期まで調査、整理をしている

が、この期間の医師、府掌について在職が判明しているのは、管見の

限り本補任稿の内容の通りである。

(5) 井上幸治『外記補任』（続群書類従完成会、二〇〇四）。

(6) 高田義人『朝野群載抄』について（『栃木史学』一八、二〇〇四）。

(7) 佐藤宗諄先生退官記念論文集刊行会『親信卿記の研究』（思文閣出

版、二〇〇五）

(8) 木本好信編『江記逸文集成』（国書刊行会、一九八五）。

(9) 木本好信・中丸貴史・樋口健太郎編『時範記逸文集成』（岩田書院、

二〇一八）。

(10) 『群書類図部集』一〇七（続群書類従完成会、一九七三）。

(11) 「楽家系図」（『伏見宮旧蔵楽書集成 三』所収、宮内庁書陵部、一九

九八）。

(12) 槇野廣造『平安人名辞典——長保二年——』（高科書店、一九九三）、

同『平安人名辞典——康平三年——』上・下（和泉書院、二〇〇七・

二〇〇八）

(13) 『平安時代史事典』（角川書店、一九九四）。

（にしやま しろう 文学研究科歴史学専攻博士後期課程）

（指導教員…佐古 愛己 准教授）

二〇二〇年九月二十三日受理

9～12c における左右近衛府官制表									
表①									
区分	官職	総称	相当位階	左右合計員数	隨身・權隨身	楽人・舞人	年頭	序頭	
上級職	大將	—	正・従二位 (従三位)	2 (2)	—				
	中將	次將	正三位～従四位 (従四位下)	2～6 (2)					
	少將	次將	従四位下～従五位 (正五位下)	4～8 (4)					
下級職	將監	官人	従五位～正六位 (従六位上)	8～ (8)	(〇)	〇	〇	—	
	將曹	官人	従五位～従七位 (従七位下)	16～ (8)	〇	〇	—	〇	
	医師	—	従五位～正六位 (正八位)	1～ (2)	—	—	—	—	
	府生	官人	正六位上～従七位	20～ (12)	〇	〇	〇	〇	
	番長	物節	—	13～ (12)	〇	—			
	案主			4～	—				
	府掌			5～	〇				
	近衛	—	従八位～大初位・无位	27～ (400)	〇	—			
駕輿丁	—	—	—						
使部	—	(20)	—						
直丁	—	—	(4)	—	—	—	—	—	

- ・左表は『近衛府補任』、『公卿補任』、各古記録、笹山晴生氏『日本古代衛府制度の研究』(東京大学出版会、1985)、古藤真平『中衛府・近衛府官員制度の再検討』(角田文衛先生寿喜記念会編『古代世界の諸相』、晃洋書房、1993所収)を参照して作成した。
- ・区分の項については、笹山氏(上掲)の近衛府内における官職格差に関する理解に従って区分している。
- ・位階および左右合計員数項について、それぞれの位階は史料より確認できる位階の範囲を記載し、また左右合計員数については史料から確認できる最低限の人数を記載した。
- ・( )内は、古藤氏(上掲)が復元された弘仁格式制時の左右近衛府の官員制を参照した。
- ・なお、9c以前の近衛府官職のうち、案主は長徳4年(988)に、府掌は元慶5年(881)にみえるのが史料上での初見である。
- ・総称の項は、各古記録において近衛府の各職がそれぞれのように総称されていたかを記載した。詳しくは吉川真司編『京都大学文学部博物館の古文書：第4輯 勅修家本職掌部類』(思文閣出版、1989)、佐々木恵介『『小右記』にみる拱間期近衛府の政務運営』(同『日本古代の官司と政務』、吉川弘文館、2018〔初出1993〕)を参照。
- ・隨身、采人・舞人、年預、戸頭の項については、近衛府官人が兼帯する職務の有無について示した。

左右近衛府將監					
和暦 (西暦)	左近衛將監	備考・出典	右近衛將監	備考・出典	左右不詳
寛元元年 (1243)	大江佐房 (五位上)	在：〔吾妻〕寛元1・7・17)	北条時定 (五位上)	在：〔相模右近大夫將監〕〔吾妻〕寛元1・7・17)	
	丹波時連 (一)	任：除目において左近將監に任ず。〔平戸〕寛元2・1・23)	宗友成 (一)	任：除目において右近將監に任ず。〔平戸〕寛元2・1・23)	
	藤原清親 (一)	任：除目において左近將監に任ず。〔同上〕	源連康 (一)	任：除目において右近將監に任ず。〔同上〕	
	藤原季時 (一)	任：除目において左近將監に任ず。〔同上〕	藤原為實 (一)	任：除目において右近將監に任ず。〔同上〕	
	藤原重俊 (一)	任：除目において左近將監に任ず。〔同上〕	源能綱 (一)	任：除目において右近將監に任ず。〔平戸〕寛元2・1・28)	
	藤原友枝 (一)	任：除目において〔八王子遷宮功〕により、左近將監に任ず。〔平戸〕寛元2・1・28)	源広義 (一)	任：除目において〔臨時〕により、右近將監に任ず。〔同上〕	
	藤原盛綱 (一)	任：除目において八王子遷宮拝殿功により、左近將監に任ず。〔同上〕	源師国 (一)	任：除目において臨時により、右近將監に任ず。〔同上〕	
	藤原教久 (一)	任：除目において〔当年元三替物功〕により、左近將監に任ず。〔同上〕	清原宗忠 (一)	任：除目において右近將監に任ず。〔平戸〕寛元2・3・6)	
	源重氏 (一)	任：除目において〔臨時〕により、左近將監に任ず。〔同上〕	平親久 (一)	任：除目において右近將監に任ず。〔同上〕	



	丹波鶴利〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・3・6)		中原久義〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	藤原俊綱〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		河内真清〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	清原朝光〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		惟宗景量〔一〕	任：除目において「日吉八王子三宮功」により、右近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・4・5)			
	藤原泰次〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		藤原仲家〔一〕	任：除目において「臨時内給」により、右近将監に任ず。 (同上)			
	柏光高〔一〕	任：除目において左近将監に還任す。〔平戸〕寛元2・4・5)		源雅範〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	藤原行村〔一〕	任：除目において「臨時内給」により、左近将監に任ず。 (同上)		藤原忠泰〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・4・28) / 除目において右近将監に任ず。〔平戸〕同2・8・25)			
	藤原以家〔一〕	任：除目において「春宮御折七瀬御暇功」により、左近将監に任ず。 (同上)		藤原宗光〔一〕	任：最勝禪功人の除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・5・11)			
	藤原惟景〔一〕	任：除目において「臨時内給」により、左近将監に任ず。 (同上)		橘久村〔一〕	任：最勝禪功人の除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	藤原宗弘〔一〕	任：最勝禪功人の除目において「往年最勝禪功」により、左近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・5・11)		中原末繼〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・6・22)			
	中原貞光〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		藤原定俊〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	中原範経〔一〕	任：最勝禪功人の除目において「臨時」により、左近将監に任ず。 (同上)		藤原為尚〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	源清保〔一〕	任：最勝禪功人の除目において「附奏」により、左近将監に任ず。 (同上)		藤原行頼〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
寛元2年 (124)	伴基盛〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・6・22)		平光種〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・7・16)			
	藤原忠氏〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		平祐成〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	藤原貞康〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		平成国〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	中原秀弘〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		藤原能満〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	源国長〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		大江則経〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・8・25)			
	藤原忠国〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・7・16)		藤原経行〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	平季景〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		藤原親家〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	源宗光〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		源盛員〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。 (同上)			
	平国時〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		三上実景〔一〕	任：除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・10・4)			
	源時保〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・8・25)		藤原利基〔一〕	任：任左右衛門少尉を申す。(「妙槻」寛元2・1・21)			
	菅原為兼〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		北条時定〔(五位)〕	在：「相模右近大夫将監」。(「吾妻」寛元2・1・1)			
	源光重〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)		能登仲時〔(五位)〕	在：「右近大夫」。(「吾妻」寛元2・4・21)			
	藤原盛氏〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)						
	源邊平〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元2・10・4)						
	藤原為光〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)						
	源定氏〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。 (同上)						

	北条時頼 (五位)	在：「左近大夫将監」。(『吾妻』寛元2・1・1)			
	武藤兼綱 (一)	在：(『吾妻』寛元2・1・1) / 「右近将監」。(『吾妻』寛元2・8・15)			
	齋藤 (名不詳) (一)	在：(『吾妻』寛元2・1・1)			
	藤原景家 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(『平戸』寛元3・1・13)	中原盛長 (一)	在：除目において右近将監に任ず。或いは「重長」か。(『平戸』寛元3・1・13)	
	藤原盛長 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	和邇部忠棟 (一)	在：除目下名において「去年寛茂臨時祭功」により、右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・1・17)	
	源為房 (一)	在：除目下名において「日吉八王子三宮押般功」により、左近将監に任ず。(『平戸』寛元3・1・17)	藤原季定 (一)	在：除目下名において「東大寺七塔御塔功」により、右近将監に任ず。(同上)	
	橘知重 (一)	在：除目下名において「臨時」により、左近将監に任ず。(同上)	平助盛 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・3・8)	
	源広具 (一)	在：除目下名において「去年十月御更衣功」により、左近将監に任ず。(同上)	中原有綱 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	清原家益 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(『平戸』寛元3・3・8)	物部兼光 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	大中臣重光 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	橘俊清 (一)	在：祭除目において右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・4・8)	
	兼広重 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	小乃清貞 (一)	在：祭除目において右近将監に任ず。(同上)	
	安倍兼盛 (一)	在：祭除目において左近将監に任ず。(同上)	藤原重光 (一)	在：祭除目において右近将監に任ず。(同上)	
	源■ (一)	在：祭除目において左近将監に任ず。(同上)	橘政衡 (従五位下)	在：祭除目において右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・4・8) / 斎宮功人除目において祓爵。(『平戸』同3・8・5)	
寛元3年 (1245)	中原吉景 (一)	在：祭除目において左近将監に任ず。(同上)	源清信 (一)	在：祭除目において右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・4・8)	
	平時高 (一)	在：祭除目において左近将監に任ず。(同上)	平盛友 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・5・8)	
	藤原為康 (一)	在：祭除目において左近将監に任ず。(同上)	源友行 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	梶守国弘 (一)	在：祭除目において左近将監に任ず。(同上)	橘信重 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	藤原親重 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(『平戸』寛元3・5・8)	源影則 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	大中臣助信 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	中原光房 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	藤原包良 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	藤原俊忠 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・6・26)	
	良岑師泰 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	高橋親範 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	源有綱 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	佐伯守安 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	大中臣宣通 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	平重経 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	藤原信忠 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(『平戸』寛元3・6・26)	藤原親光 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	平重高 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	中原則康 (一)	在：除目において右近将監に任ず。(同上)	
	藤原能光 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	安倍貞久 (一)	在：初斎宮功人除目において「造野宮功」により、右近将監に任ず。(『平戸』寛元3・8・5)	
	栗田康友 (一)	在：除目において左近将監に任ず。(同上)	源親茂 (一)	在：初斎宮功人除目において「初斎宮本官功」により、右近将監に任ず。(同上)	

藤原末広 (一)	任：除目において左近将監に任ず。(同上)	平高季 (一)	任：初斎宮功人除目において初斎宮本官功により、右近将監に任ず。(同上)		
藤原行泰 (一)	任：初斎宮功人除目において「初斎宮行事所功」により、左近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・8・5)	平国隆 (一)	任：初斎宮功人除目において「丹生者修理功」により、右近将監に任ず。(同上)		
中原氏弘 (一)	任：初斎宮功人除目において初斎宮行事所功により、左近将監に任ず。(同上)	中原行時 (一)	任：初斎宮功人除目において「臨時」により、右近将監に任ず。(同上)		
平能忠 (一)	任：初斎宮功人除目において初斎宮行事所功により、左近将監に任ず。(同上)	橘守基 (一)	任：初斎宮功人除目において「大嘗会悠紀功」により、右近将監に任ず。(同上)		
平朝忠 (一)	任：初斎宮功人除目において「造野宮功」により、左近将監に任ず。(同上)	平繁泰 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・8・29)		
藤原惟綱 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・8・29)	藤原長久 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において右近将監に任ず。(同上)		
源保実 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において左近将監に任ず。(同上)	ト部兼寛 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において右近将監に任ず。(同上)		
藤原景良 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において左近将監に任ず。(同上)	藤原良久 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において右近将監に任ず。(同上)		
安曇包弘 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において左近将監に任ず。(同上)	源季光 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において右近将監に任ず。(同上)		
藤原助成 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において左近将監に任ず。(同上)	源厚友 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において右近将監に任ず。(同上)		
日奉景能 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において左近将監に任ず。(同上)	惟宗盛氏 (一)	任：初斎宮野宮間用塗料の除目において右近将監に任ず。(同上)		
平忠清 (一)	任：初斎宮除目において「初斎宮功」により、左近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・9・12)	源光安 (一)	任：初斎宮除目において初斎宮木柴功により、右近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・9・12)		
服部定幸 (一)	任：初斎宮除目において初斎宮功により、左近将監に任ず。(同上)	橘盛長 (一)	任：初斎宮除目において「松尾杜功」により、右近将監に任ず。(同上)		
源則元 (一)	任：除目において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・10・29)	源盛信 (一)	任：初斎宮除目において右近将監に任ず。(同上)		
伊福部言重 (一)	任：除目において左近将監に任ず。(同上)	平光重 (一)	任：除目において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・10・29)		
紀能兼 (一)	任：除目において左近将監に任ず。(同上)	清原守永 (一)	任：除目において右近将監に任ず。(同上)		
藤原輔基 (一)	任：除目下名において左近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・11・3)	藤原重国 [從五位下]	任：除目下名において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・11・3) / 除目において叙爵。〔平戸〕同3・12・8)		
藤原為時 (一)	任：除目下名において左近将監に任ず。(同上)	藤原雅世 (一)	任：除目下名において右近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・11・3)		
紀重行 (一)	任：除目下名において左近将監に任ず。(同上)	藤原定清 (一)	任：除目下名において右近将監に任ず。(同上)		
藤原経忠 (一)	任：除目において「春日行幸行事所功」により、左近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・12・8)	平宗平 [從五位下]	在：除目下名において叙爵。(同上)		
中原能綱 (一)	任：除目において春日行幸行事所功により、左近将監に任ず。(同上)	藤原俊持 (一)	任：除目において「春日行幸頓宮功」により、右近将監に任ず。〔平戸〕寛元3・12・8)		
源家信 (一)	任：除目において春日行幸行事所功により、左近将監に任ず。(同上)	中原家正 (一)	任：除目において春日行幸木工寮功により、右近将監に任ず。(同上)		



	紀種持 〔一〕	任：除目において春日行幸行事所功により、左近將監に任ず。〔同上〕	藤原助弘 〔一〕	任：除目において春日行幸内藏寮功により、右近將監に任ず。〔同上〕	
	神重助 〔一〕	任：除目において春日行幸観宮功により、左近將監に任ず。〔同上〕	大中臣吉直 〔一〕	任：除目において「松尾遷宮功」により、右近將監に任ず。〔同上〕	
	大中臣實平 〔一〕	任：除目において「元三替物功」により、左近將監に任ず。〔同上〕	長谷部氏連 〔一〕	任：除目において松尾遷宮功により、右近將監に任ず。〔同上〕	
	藤原兼綱 〔一〕	任：除目において「斎宮本所功」により、左近將監に任ず。〔同上〕	平信忠 〔一〕	任：除目において「元三替物功」により、右近將監に任ず。〔同上〕	
	藤原尚益 〔一〕	任：春日行幸料の除目において左近將監に任ず。〔平戸〕寛元3・12・22)	藤原忠能 〔一〕	任：春日行幸料の除目において右近將監に任ず。〔平戸〕寛元3・12・22)	
	源高行 〔一〕	任：春日行幸料の除目において左近將監に任ず。〔同上〕	源幸員 〔一〕	任：春日行幸料の除目において右近將監に任ず。〔同上〕	
	平清政 〔一〕	任：春日行幸料の除目において左近將監に任ず。〔同上〕	源盛茂 〔一〕	任：春日行幸料の除目において右近將監に任ず。〔同上〕	
	橘高久 〔一〕	任：春日行幸料の除目において左近將監に任ず。〔同上〕	平能員 〔一〕	任：春日行幸料の除目において右近將監に任ず。〔同上〕	
	中原宗季 〔一〕	任：春日行幸料の除目において左近將監に任ず。〔同上〕	平俊弘 〔一〕	任：春日行幸料の除目において右近將監に任ず。〔同上〕	
	平行俊 〔一〕	任：春日行幸料の除目において左近將監に任ず。〔同上〕	能登仲時 〔(五位)〕	在：「右近大夫」。〔吾妻〕寛元3・4・7)	
	北条時頼 〔(五位)〕	在：「左近大夫將監」。〔吾妻〕寛元3・1・1)	北条時定 〔(五位)〕	在：〔吾妻〕寛元3・8・15)	
	藤原明綱 〔一〕	在：藏人。〔民経〕寛元4・12・12)	北条時定 〔(五位)〕	在：「右近大夫將監」。〔吾妻〕寛元4・2・28)	源仲忠 〔一〕
寛元4年 (1246)	北条時頼 〔(五位)〕	在：「左近大夫將監」。〔吾妻〕寛元4・1・4) / 執權。〔吾妻〕向4・2・23) / 「左近大夫將監」。〔葉黄〕寛元4・8・27)	北条時兼 〔(五位)〕	在：「右近大夫將監」。〔吾妻〕寛元4・8・15)	
	明石兼綱 〔(五位)〕	在：「左近大夫將監」。〔吾妻〕寛元4・3・13)			
	〔姓不詳〕重能 〔一〕	在：〔葉黄〕寛元4・3・11)	能登仲時 〔(五位)〕	在：「右近大夫」。〔吾妻〕宝治1・5・14)	
	北条時頼 〔一〕	在：〔民経〕経光卿維摩会参向記紙背文書	藤原範頼 〔六位〕	在：後嵯峨上皇皇女御湯殿の鳴弦を勤む。〔経俊〕宝治1・10・13)	
	北条長時 〔一〕	在：「相模左近大夫將監殿」。〔民経〕経光卿維摩会参向記紙背文書) / 「左近大夫」。北条重時子。〔葉黄〕宝治1・6・6)	源広忠 〔一〕	任：除目において右近將監に任ず。〔経俊〕宝治1・11・7)	
	北条時兼 〔(五位)〕	在：「左近大夫將監」。〔吾妻〕宝治1・5・14)	中原助氏 〔一〕	任：除目において右近將監に任ず。〔同上〕	
	美濃時秀 〔(五位)〕	在：「左近大夫將監」。〔同上〕	藤原朝重 〔一〕	任：除目下名において「蓮華王院増社功」により右近將監に任ず。〔経俊〕宝治1・12・12)	
宝治元年 (1247)	橘 (名不詳) 〔(五位)〕	故：宝治合戦において死去。〔左近大夫〕。〔吾妻〕宝治1・6・22)			
	〔姓不詳〕藤房 〔(五位)〕	在：後嵯峨上皇皇女御湯殿の鳴弦を勤む。〔経俊〕宝治1・10・13)			
	源仲忠 〔六位〕	在：後嵯峨上皇皇女御湯殿の鳴弦を勤む。〔経俊〕宝治1・10・13) / 院藏人。〔経俊〕同1・11・1)			
	源義持 〔六位〕	在：後嵯峨上皇皇女御湯殿の鳴弦を勤む。〔経俊〕宝治1・10・13)			
	藤原永輔 〔六位〕	在：後嵯峨上皇皇女御湯殿の鳴弦を勤む。〔同上〕			

	源助忠 〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔経後〕 宝治1・11・7)			
	源實行 〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔同上〕			
	藤原信幸 〔一〕	任：除目において左近将監に任ず。〔同上〕			
	上野国時 〔一〕	任：除目下名において「元三替物功」により左近将監に任ず。〔経後〕宝治1・12・12)			
	大江家時 〔一〕	任：除目下名において左近将監に任ず。〔同上〕			
宝治2年 (1248)	大江佐房 〔五位上〕	在：「少輔左近大夫将監」。〔吾妻〕宝治2・1・3)	北条時定 〔五位上〕	在：「右近大夫将監」。〔吾妻〕宝治2・1・3)	
	那波政茂 〔五位上〕	在：「左近大夫将監」。〔吾妻〕宝治2・⑫・10)			
	明石兼綱 〔五位上〕	在：〔吾妻〕宝治2・⑫・18)			
	〔姓不詳〕範重 〔五位上〕	在：「職事」、「左近大夫」。〔兼黄〕宝治2・11・3)			
不詳			藤原棟材カ 〔一〕	故：「右近進」。〔左経記〕長和5・5・25)	

左右近衛府医師						
	左近衛医師	備考・出典	右近衛医師	備考・出典	左右不詳	備考・出典
和暦 (西暦)						
承和2年 (835)			紀福吉 (外従五位下)	在：姓を賜り大村直より紀宿禰とする (『続後紀』承和2・10・4)。		
斉衡2年 (855)			家原善崇 (正七位上)	在： (『文徳』 斉衡2・8・15)		
貞観10年 (868)	紀春生 (外従五位下)	在：叙外従五位下。 (『三代』 貞観10・1・8)				
延喜5年 (905)	時原興宗 (一)	在：延長3年、従五位下侍医兼医博士備後権介。 (『符宣』 第九 誕生試)				
延喜3年 (925)	宮春来 (従六位上)	在：医博士課試を申請する。 (『符宣』 第九 誕生試)				
康保3年 (966)	河内博遠 (一)	在： (『符宣』 第九 誕生試)				
永保元年 (1081)	惟宗永保 (正六位上)	在：典藥寮兼奏により左近医師に任ず。 (『大開』 第七「連奏」)				
康治2年 (1143)			小槻忠辰 (一)	在：臨時除目において右近医師より典藥少允に任ず。 (『世紀』 康治2・1・27)		
仁平2年 (1152)					中原盛春 (正六位上)	在： (『兵範』 仁平2・4・8)
久壽元年 (1154)			清原知政 (正六位上)	在：道孝により右近医師に任ずるか。 (『魚魯』 巻第二「医道」) / 医道連奏により右近医師に任ず。丹波重成弟子。 (『大開』 第七「道連奏」)		
正治2年 (1200)	惟宗基清 (一)	在：除目において左近医師に任ず。 (『明月』 正治2・10・27)				
元久2年 (1205)	中原清基 (一)	在：除目において左近医師に任ず。 (『明月』 元久2・1・30)	小槻宗久 (一)	在：除目において右近医師に任ず。 (『明月』 元久2・1・30)		
寛喜元年 (1229)	中原景清 (一)	在：除目において「道奏」により、左近医師に任ず。 (『明月』 寛喜1・10・6)				
仁治元年 (1240)	中原朝清 (一)	在：除目において左近医師に任ず。 (『平戸』 仁治1・1・22)				
寛元2年 (1244)			中原久定 (一)	在：除目において右近医師に任ず。 (『平戸』 寛元2・1・23)		

左右近衛府府掌							
和暦（西暦）	左近衛府掌	備考・出典	右近衛府掌	備考・出典	左右不詳	備考・出典	
元暦5年（881）					下毛野安世〔一〕	在：〔三代〕元慶5・1・一）	
承平6年（936）					多修忠〔一〕	在：隨身。〔九暦〕承平6・12・16）	
承平7年（937）					清江忠秀〔一〕	在：曙射において矢的中により、舎人より府掌に任ず。或いは〔九暦〕承平7・1・19）	
					仲野当運〔一〕	在：曙射において矢的中により、府掌より権番長に任ず。或いは（同上）	
永祚元年（989）					古部是總〔一〕	在：大將隨身。同日近衛より物節（府掌）に任ず。〔小右〕永祚1・7・4）	
正暦4年（993）					美努久木〔一〕	在：もしくは兵衛府掌か。〔小右〕正暦4・5・12）	
長和2年（1013）					下毛野公時〔一〕	在：右近か。物節・隨身多為重の替。〔御堂〕『小右』長和2・7・22）／番長に任ず。〔小右〕同2・8・16）	
					六人部信通〔一〕	在：物節：〔小右〕長和3・12・2）	
長和3年（1014）					物部宗時〔一〕	在：物節定書に載る。〔小右〕長和3・12・4）	
					下毛野公武〔一〕	在：物節定書に載る。（同上）	
寛仁元年（1017）			下毛野光武〔一〕	在：藤原道長隨身。下毛野公時死去の替として近衛より府掌に任ず。〔小右〕寛仁1・10・8）／御馬騎。〔小右〕同1・12・5）／番長に任ず。〔小右〕同1・12・10）			
寛仁2年（1018）					高向公方〔一〕	在：小一条院隨身。〔小右〕寛仁2・4・24）	
寛仁3年（1019）			荒木武晴〔一〕	在：藤原実資隨身。近衛より府掌に任ず。〔小右〕寛仁3・2・19）／同3・8・28、番長に任ず。	高扶武〔一〕	在：藤原実資隨身。近衛より府掌に任ず。右近か。南海道（淡路・阿波・伊予・讃岐）相摸使。〔小右〕寛仁3・2・19）／番長に任ず。〔小右〕同3・11・3）	
					藤井尚貞〔一〕	在：〔小右〕寛仁3・7・21）	
治安元年（1021）			播磨貞安〔一〕	在：藤原頼通隨身。〔行幸〕以前に府掌に補し、幾程も経ずに番長に補す。〔小右〕治安1・10・29）	六人部保武〔一〕	在：身入部保武と同一か。故三条上皇の仰せにより近衛より府掌に任ず。〔小右〕治安1・10・29）	
治安3年（1023）					六人部保武〔一〕	在：身入部保武と同一か。藤原実資隨身。山陰道相摸使。〔小右〕治安3・5・2）	
					紀元武〔一〕	在：藤原実資隨身。近衛より府掌に任ず。〔元武〕とするは誤りか。〔小右〕治安3・8・16）	
万寿2年（1025）					紀元武〔一〕	在：右近か。番長に任ず。〔小右〕万寿2・10・10）	
万寿4年（1027）					物部宗時〔一〕	在：右近か。番長に任ず。〔小右〕万寿4・1・29）	
					播磨為利〔一〕	在：右近か。番長に任ず。（同上）	
					文是安〔一〕	在：右近か。近衛より府掌に任ず。〔小右〕万寿4・1・29）／藤原道長に伺候する。〔小右〕同4・4・23）	

				高扶常〔一〕	在：小一条院隨身。右近か。番長に任ず。 〔小右〕万寿4・4・23)
				下毛野公安〔一〕	任：藤原実資隨身。右近か。高扶常を番長に任ずの替として、近衛より府掌に任ず。〔小右〕万寿4・4・23)
				下毛野公安〔一〕	在：藤原実資隨身。右近か。〔小右〕長元1・7・19)
				兼安信〔一〕	在：右近か。〔小右〕長元1・7・19)
				文是安〔一〕	在：右近か。〔小右〕長元1・7・19) / 「備後掾正六位上・文宿禰是安」(年不詳)。〔大間〕第五「諸衛兼国」
				惟宗為武〔一〕	任：「為氏」につくる。「能射矢数者」、「無府掌」により近衛より府掌に任ず。右近か。〔小右〕長元1・9・9)
長元4年 (1031)				下毛野公安〔一〕	在：〔左経〕長元4・4・26) / 藤原実資隨身。〔小右〕同4・7・30)
長元5年 (1032)				惟宗為武〔一〕	在：「能射矢数者」上、また源隆国の望みにより番長に任ず。〔小右〕長元5・12・3)
康和5年 (1103)	佐伯重友〔一〕	在：〔為房〕康和5・8・17)	身人部友重〔一〕	在：〔為房〕康和5・8・17)	
	兼清貞〔一〕	在：〔台記〕仁平1・11・10)			
	兼安国〔一〕	在：名前に誤りあるか。(同上)			
	矢田部成方〔一〕	在：(同上)			
	物部安貞〔一〕	在：(同上)			
	田口重元〔一〕	在：(同上)			
	兼久元〔一〕	在：(同上)			
	中原国元〔一〕	在：「府生」とあるは「府掌」の誤りか。 〔移徙〕後鳥羽院甲)	立花武久〔一〕	在：〔移徙〕後鳥羽院甲)	
建久9年 (1198)	清原武次〔一〕	在：(同上)	兼国久〔一〕	在：(同上)	

左右近衛府將曹				
和暦（西暦）	左近衛將曹	備考・出典	右近衛將曹	備考・出典
神護景雲元年(767)	大同2年（807）に「左近衛府」・「右近衛府」が成立するまでは「近衛府」単一の組織であるため、天平神護元年（765）～大同元年（806）の期間では左・右の区別はないが、この期間の補任状況は便宜上、「左右不詳」の項目にまとめている。			
延暦2年（783）	期間では左・右の区別はないが、この期間の補任状況は便宜上、「左右不詳」の項目にまとめている。		住吉豊継（一）	在：〔後紀〕弘仁1・9・11）／弘仁5年時、従七位下（三代）、〔類国〕弘仁5・1・7）
延暦5年（786）				
弘仁元年（810）				
天長2年（825）			中臣鹿島貞忠〔従八位上〕	在：〔類国〕天長2・⑦・22）
天長10年（833）			伴林御園（一）	在：伴宿禰の姓を賜う。〔統後紀〕天長10・2・25）
承和元年（834）	佐伯重成（一）	在：〔紀略〕承和1・11・11）		
承和10年（843）	坂上彌守（一）	在：19歳・左近衛將曹に任ず。〔三代〕元慶5・11・9）		
嘉祥3年（850）	栗田真持（一）	在：〔文徳〕嘉祥3・4・14）		
斉衡元年（854）	神門氏成（一）	在：〔文徳〕斉衡1・4・27）		
貞観2年（860）	忠世真〔外従五位下〕	在：叙外従五位下。〔三代〕貞観2・11・16）		

貞観6年 (864)			和葉弟雄 [正六位上]	在：宿禰の姓を賜う。〔三代〕貞観6・8・17)		
元慶2年 (878)			茨田貞額 [從七位下]	在：兼出羽權大目。〔三代〕元慶2・5・4)		
元慶3年 (879)			茨田貞額 [從七位下]	在：兼出羽權大目。〔三代〕元慶3・6・26)		
	淡路有守 [一]	在：左近將曹より少外記に任ず。〔魚龜〕卷第七『自近衛將曹任外記例』、『外記』				
	壬生益成 [一]	在：〔古今〕				
元慶6年 (882)	壬生益成 [從六位上]	在：〔三代〕元慶6・11・朔				
仁和3年 (887)	宮道有憲 [一]	在：〔符宣〕第四 御膳				
寛平元年 (889)			宮道有憲 [一]	在：右近將曹より少外記に任ず。〔魚龜〕卷第七『自近衛將曹任外記例』、『外記』		
延長3年 (925)	上毛野時見 [一]	在：人長。〔吏部〕延長3・11・20、『要略』卷二十六年中行事十一月)				
延長6年 (928)					尾張遠兼 [一]	在：〔吏部〕延長6・11・21)
天慶4年 (941)			播磨当樹 [一]	在：〔世紀〕天慶4・11・5)		
天慶5年 (942)					播磨文仲 [一]	在：〔吏部〕天慶5・11・24)
天慶8年 (945)			船木利用 [一]	在：〔小野宮年中行事〕二月 御読経事)		
天曆7年 (953)	船木茂実 [一]	在：〔九歴〕天曆7・10・28)				
応和1年 (961)					石野善根 [一]	在：格勅により、備前国史生を兼任する。〔符宣〕第七 諸国一分)
応和3年 (963)					間人秀仁 [一]	在：〔村上〕応和3・9・26)
康保1年 (964)					石野善根 [一]	在：この年3月に権將監に任ず。〔符宣〕第七 諸国一分)
天延2年 (974)	物部行忠 [一]	在：將曹より権將監に任ず。〔親信〕天延2・4・10)				
永觀2年 (984)			下毛野重行 [一]	在：〔小右〕永觀2・11・5)		
寛和元年 (985)			多好茂 [一]	在：〔小右〕寛和1・3・30)	間人惟武 [一]	在：左近か。〔小右〕寛和1・1・10)
			藥興蔚 [一]	在：〔小右〕寛和1・5・21)		
永延2年 (988)	尾張兼時 [一]	在：〔小右〕永延2・11・7)				
永祚元年 (989)	御春清助 [一]	在：〔小右〕永祚1・4・28、同1・9・19)	多好茂 [一]	在：同日解却す。〔小右〕永祚1・6・12) / 右兵衛尉。〔小右〕寛弘2・3・6)		
	尾張兼時 [一]	在：〔小右〕永祚1・7・3)				
正暦2年 (991)	尾張兼時 [一]	在：〔著聞〕馬芸第十四-三五四)	下毛野敦行 [一]	在：〔著聞〕馬芸第十四-三五四)		
正暦4年 (993)	三宅滋明 [一]	在：〔世紀〕正暦4・11・1)	多公高 [一]	在：〔小右〕正暦4・4・15)		
			六人部親雅 [一]	在：不参により解任。〔世紀〕正暦4・7・21)		
長徳元年 (995)	三宅滋明 [一]	在：〔世紀〕、『権記』長徳1・10・7) / 〔左近將監〕。〔世紀〕、『権記』同1・9・22)				
長徳2年 (996)	三宅滋明 [一]	在：〔小右〕長徳2・8・17)	中臣嘉武 [正六位上]	在：〔長徳〕		
長徳3年 (997)	美努秀茂 [正六位上]	在：〔長徳〕				
長徳4年 (998)	(姓不詳) 栗百 [一]	在：〔権記〕長徳3・8・6)				
	尾張兼時 [一]	在：左近將曹か。〔権記〕長徳4・9・26)	身人部仲重 [一]	在：〔権記〕長徳4・3・28)		

長保元年 (999)			身人部仲重 [一]	在：〔世紀〕長保1・6・18)	紀光方 [一]	在：左近か。〔権記〕長保1・12・17)
長保5年 (1003)			多武文 [一]	在：〔権記〕長保5・4・21)		
			下毛野公助カ [一]	在：〔同上〕		
寛弘元年 (1004)	物部武能 [一]	在：〔武告〕につくる。〔御堂〕寛弘1・5・27)	身人部仲重 [一]	在：〔御堂〕寛弘1・5・27)		
寛弘2年 (1005)			多武文 [一]	在：〔小右〕寛弘2・2・14) / 〔江家次第〕卷十九「臨時競馬事」には「物部武文」なる人物あり。関連あるか。	高扶宣 [一]	在：将曹久により府生より将曹に任ず。〔小右〕寛弘2・4・25)
			身人部仲重 [一]	在：〔小右〕寛弘2・5・6)	身人部保春 [一]	在：右近か。〔小右〕寛弘2・7・29) / 権隨身。〔小右〕同2・10・19)
寛弘3年 (1006)			多武文 [一]	在：〔多武文〕。競馬乗戻とせんかため、右近衛将曹より左近将監に任ず。〔御堂〕寛弘3・9・14) / 〔江家次第〕卷十九「臨時競馬事」には「物部武文」なる人物あり。関連あるか。	宗岳高兼 [一]	在：〔美濃掾〕。競馬乗戻とせんかため、将曹に任ず。〔御堂〕寛弘3・9・14)
寛弘5年 (1008)			下毛野公助 [一]	在：〔御堂〕寛弘5・2・1)	高向カ公方 [一]	在：〔小右〕寛弘5・12・18)
寛弘8年 (1011)	八俣部重種 [一]	在：〔権記〕寛弘8・11・30)	下毛野公助 [一]	在：〔小右〕寛弘8・9・29)	高助宣 [一]	在：〔小右〕寛弘8・1・21)
			紀正方カ [一]	在：〔小右〕寛弘8・8・26) / 権隨身。〔小右〕同8・12・27) / 或いは多政方か。		
長和元年 (1012)			紀正方 [一]	在：〔小右〕長和1・4・23)		
長和2年 (1013)	八俣部重種 [一]	在：〔小右〕長和2・4・1)	下毛野公助 [一]	在：〔将曹〕とあるは誤りか。〔世紀〕, 〔小右〕長和2・4・23)	中臣嘉数 [一]	在：右近か。〔小右〕長和2・9・21)
			紀正方 [一]	在：〔小右〕長和2・1・16) / 〔紀正方〕とあり。前後の時期より紀正方は近衛府諸務に従事することが散見される。		
	多治時政 [正六位上]	在：一条院藏人所出納の所により左近将曹に任ず。〔大間〕第八「田旁」]				
長和3年 (1014)	八俣部重種 [一]	在：〔小右〕長和3・2・3)	紀正方 [一]	在：〔小右〕長和3・2・4)	多武吉 [一]	在：〔八番「番長奏武方、将曹多武吉」〕。〔小右〕長和3・5・16)
長和4年 (1015)			六人部保春 [一]	在：この日将監に任ぜらるか。〔小右〕長和4・8・27) / 身人部保春と同一人物か。	大石拳吉 [一]	在：〔小右〕長和3・5・16)
			泰正親 [一]	在：この日府生より将曹に任ず。〔小右〕長和4・9・2)		
長和5年 (1016)	八俣部重種 [一]	在：〔小右〕長和5・1・7)	紀正方 [一]	在：〔小右〕長和4・4・27)		
			紀正方 [一]	在：〔小右〕長和5・1・14)		
寛仁元年 (1017)	八俣部重種 [一]	在：〔御堂〕寛仁1・8・23)	小野拳政 [一]	在：〔小右〕長和5・1・29)		
寛仁2年 (1018)			多政方 [一]	在：〔正方〕につくる。〔左経〕寛仁1・9・29)		
			紀正方 [一]	在：〔小右〕寛仁1・8・9)		
			紀正方 [一]	在：〔小右〕寛仁2・4・1)	若俣部亮範 [一]	在：右近か。〔小右〕寛仁2・5・22)
	八俣部重種 [一]	在：〔小右〕寛仁3・2・3)	泰正親 [一]	在：〔小右〕寛仁3・2・13)		
寛仁3年 (1019)			若俣部亮範 [一]	在：〔同上〕		
			多政方 [一]	在：〔雅方〕につくる。この時期丹後国に在り。〔小右〕寛仁3・7・24)		
寛仁4年 (1020)	八俣部重種 [一]	在：〔小右〕寛仁4・10・8)	紀正方 [一]	在：〔小右〕寛仁3・2・11)		
			多政方 [一]	在：〔正方〕につくる。〔小右〕逸文 寛仁4・3・22)		



治安元年 (1021)			多政方 (一)	在：上臈。〔小右〕治安1・3・29)	(姓不詳) 為国 (一)	在：秦氏或いは播磨氏か。〔小右〕治安1・10・14)
治安2年 (1022)			紀正方 (一)	在：〔小右〕治安1・7・26)		
	秦延命 (一)	在：〔小右〕治安3・4・16)	紀正方 (一)	在：〔小右〕治安2・4・25)		
治安3年 (1023)	八俣部重種 (一)	在：〔小右〕治安3・4・17)	紀正方 (一)	在：〔小右〕治安3・1・11)		
	榎本季理 (一)	在：(同上)	多政方 (一)	在：〔小右〕治安3・4・17) / 同3・⑨・23、舞師。		
	(姓不詳) 武敏 (一)	在：(同上)	(姓不詳) 高範 (一)	在：〔小右〕治安3・4・17)		
万寿元年 (1024)			秦正親 (一)	在：〔小右〕治安3・4・17) / 南海道相撰使。〔小右〕同3・7・19)		
			紀正方 (一)	在：〔小右〕万寿1・1・15)		
万寿2年 (1025)			小野奉政 (一)	在：〔小右〕万寿1・1・17)		
			紀正方 (一)	在：〔小右〕万寿2・3・17)	多重孝 (一)	在：藤井尚貞を多重孝の替として府生に任ずとあり。〔小右〕万寿2・3・15)
万寿3年 (1026)	(姓不詳) 延名 (一)	在：秦延命か。〔左経〕万寿3・1・24)	紀正方 (一)	在：南海道相撰使。〔小右〕万寿3・7・30)		
	(姓不詳) 茂助 (一)	在：〔小右〕逸文万寿3・4・1)	秦正親 (一)	在：大雲相撰使。〔小右〕万寿3・7・30)		
			若倭部亮範 (一)	在：藤原美實隨身。〔小右〕万寿4・1・3)		
万寿4年 (1027)			紀正方 (一)	在：〔小右〕万寿4・4・7)		
			秦正親 (一)	在：〔小右〕万寿4・7・25)		
			多政方 (一)	在：〔小右〕万寿4・7・29)		
			紀正方 (一)	在：〔小右〕長元1・7・10)		
長元元年 (1028)	大石久遠 (一)	在：〔左経〕長元1・5・18)				
	(姓不詳) 延名 (一)	在：秦延命か。〔左経〕長元1・5・17)				
長元2年 (1029)	(姓不詳) 久友 (一)	在：〔小右〕長元2・4・1)	紀正方 (一)	在：〔小右〕長元2・7・19)		
	秦延命 (一)	在：〔小右〕長元2・4・14)				
			紀正方 (一)	在：〔小右〕長元3・5・2カ)		
			多政方 (一)	在：(同上)		
長元3年 (1030)			勝良真 (一)	在：(同上)		
			若倭部亮範 (一)	在：(同上)		
			秦正親 (一)	在：〔小右〕長元3・9・22)		
			秦正親 (一)	在：權隨身に任ず。〔小右〕長元4・1・1)	大石久遠 (一)	在：左近か。〔左経〕長元4・7・5)
長元4年 (1031)	尾張時頼 (一)	在：人長。この秋死去。〔左経〕長元4・⑩・24)	紀正方 (一)	在：〔小右〕長元4・2・6)		
	(姓不詳) 延名 (一)	在：秦延命か。〔左経〕長元5・6・11)				
長元5年 (1032)	(姓不詳) 時国 (一)	在：〔左経〕長元5・3・17、〔小右〕長元5・4・21)				
	茨田為弘 (一)	在：〔小右〕長元5・4・21)				
長元6年 (1033)			多政方 (一)	在：〔小右〕逸文長元6・11・28)		
長元8年 (1035)	(姓不詳) 時国 (一)	在：〔左経〕長元8・1・19)				
長暦2年 (1038)	(姓不詳) 久友 (一)	在：〔春逸〕	多政方 (一)	在：〔春逸〕		
			高向か公方 (一)	在：〔春逸〕		
長暦3年 (1039)	(姓不詳) 久友 (一)	在：〔春記〕長暦3・⑫・14)				
永承3年 (1048)			茨田光重 (一)	任：同日、左近府生より「右近将曹」に任ず。〔春記〕永承3・3・3)		

永承5年（1050）	大友信国〔一〕	在：〔春記〕永承5・3・6）	多政實〔一〕	在：〔政助〕につくる。〔春記〕永承5・3・6）／〔右近将曹〕。〔春記〕同5・3・12）		
	茨田光重〔一〕	在：（同上）				
	狛則高〔一〕	在：衆人に転任する。（同上）				
康平4年（1061）	（姓不詳）吉光〔一〕	在：〔春記〕永承5・3・12）				藤沢吉高〔一〕
						在：〔山槐〕平治1・1・18）
康平5年（1062）						三池安武〔一〕
						在：〔定家〕康平5・4・22）／〔讃岐権掾正六位上三池宿禰安武〕（年不詳）。〔大前〕第五〔諸衛兼国〕
治暦3年（1067）			玉手輔頼〔從七位上〕	任：右近将曹に任ず。〔朝野〕第四 朝議上）		
治暦4年（1068）	滋生行兼〔一〕	在：〔行包〕につくる。〔江逸〕治暦4・7・21）	香佐任〔一〕	在：高佐任か。〔江逸〕治暦4・7・21）		（姓不詳）武吉〔一〕
延久元年（1069）						在：〔土右〕延久1・6・25）
延久2年（1070）	大松惟季〔從七位上〕	任：本府旁により左近将曹に転任する。〔大前〕大八〔転任〕				
承保3年（1076）	泰武元〔一〕	在カ：近江国雄所預職に任じ、のち出家。〔朝野〕第八（別奏）				
承保4年（1077）	狛則季〔一〕	任：府生より将曹に任ず。〔水左〕承保4・12・13）				
承暦2年（1078）	滋生行兼〔正六位上〕	在：〔周防少掾正六位上滋生宿禰行兼（兼左近将曹）〕、〔被住美作・周防掾關状〕。〔大前〕第五〔諸衛兼国〕				
承暦3年（1079）			大神（名不詳）	在：僧長徳田地亮券に加判。〔平通〕1172）		下毛野助友〔一〕
						在：〔為房〕承暦3・4・11）
承暦4年（1080）			中臣カ助任〔一〕	在：〔水左〕承暦4・1・16）		
			下毛野助友〔一〕	在：〔水左〕承暦4・10・21）		
応徳元年（1084）			玉手輔頼〔一〕	在：〔水左〕補遣永保四年正月十七日）		
応徳2年（1085）	紀清任〔正六位上〕	任：〔本府奏〕。〔魚魯〕卷第二〔諸司奏〕				
寛治元年（1087）			下毛野兼任〔一〕	在：〔下野兼任〕とあり。泰兼任の誤りか。〔為房〕寛治1・4・23）		
寛治2年（1088）	中臣近友〔一〕	任：将曹に任ず。〔中右〕寛治2・1・13）／藤原忠実舞師。〔師通〕同2・2・28）／白河上皇隨身。〔中臣近友〕。〔寛治〕、〔時範〕同2・3・23）	下毛野重季〔一〕	在：白河上皇隨身。〔寛治〕寛治2・3・23）／〔時範〕同1・3・23）		下毛野敦季〔一〕
						任：将曹に任ず。〔敦末〕につくる。〔中右〕寛治2・1・13）／白河上皇隨身。〔中右〕同2・11・11）
			多實忠〔一〕	在カ：〔中右〕寛治2・1・19）／〔祐忠〕につくる。多實忠か。〔師記〕寛治2・8・7）		
寛治5年（1091）	紀清任〔一〕	在：〔江逸〕寛治3・1・5）				
	下毛野敦季〔一〕	在：〔厚末〕につくる。〔江逸〕寛治5・1・18）／〔敦末〕につくる。〔師通〕同5・3・26/4・15、〔中右〕同5・3・27）				
	中臣近友〔一〕	在：〔大中臣〕につくる。〔師通〕寛治5・3・26/4・15、〔中右〕同5・3・27）／撰津国左近衛将曹中臣近友請文〕。撰津国水成瀬村東大寺額田申請。〔平通〕1291）				

寛治6年 (1092)	下毛野敦季〔一〕	在：「敦末」につくる。〔師通〕寛治6・2・6〕／年預。父子ともに年預を務むを申す旨あり。〔師通〕同6・12・28、30〕／白河上皇隨身。〔「中右」寛治6・4・20〕	〔姓不詳〕高重〔一〕	在：〔為房〕寛治6・1・19〕	中臣近友〔一〕	在：白河上皇隨身。〔「中右」寛治6・4・20〕
					〔姓不詳〕助頼〔一〕	在：「本府」。〔為房〕寛治6・2・6〕
					〔姓不詳〕助廉〔一〕	在：御隨身。「本府」。〔為房〕寛治6・2・2〕
寛治7年 (1093)	泰武元〔正六位上〕	任：「式基」とあり。〔師通〕寛治7・4・21〕／〔江逸〕同7・10・3〕／「武基」につくる。将曹に任ず。〔師通〕寛治7・12・27〕	山村吉貞〔正六位上〕	任：〔師通〕，「中右」寛治7・11・20〕		
	中臣近友〔一〕	故：死去。この時60余歳。「容顔美麗、所能勝也。吾人之中英雄者也」。大中臣近友と同一人物。中臣兼武男。〔「中右」寛治7・12・18〕	下毛野近季〔一〕	任：「延末」につくる。府生より将曹に任ず。〔師通〕寛治7・12・27〕／白河上皇隨身。元左近府生。〔「中右」同7・12・27〕		
	泰武元〔一〕	任カ：「元右院御隨身」とあり。〔「中右」寛治7・12・27〕				
	下毛野敦季〔一〕	在：白河上皇隨身。〔「中右」寛治7・5・9〕／〔師通〕同7・4・21〕				
	下毛野敦季〔一〕	在：除目において左近将監に任ず。〔「中右」嘉保1・3・28〕	紀清任〔一〕	在：〔江逸〕嘉保1・4・14〕		
嘉保元年 (1094)			泰武元〔一〕	在：「院」。〔江逸〕嘉保1・4・14〕／白河上皇隨身。〔「中右」同1・4・16〕		
			下毛野近季〔一〕	在：「院」。〔江逸〕嘉保1・4・14〕		
嘉保2年 (1095)			中臣カ武光〔一〕	在：白河上皇隨身。〔「中右」嘉保2・4・19〕	泰武元〔一〕	在：〔「中右」嘉保2・8・28〕／永久4年(1116)「從七位上泰宿禰武元」を皇后宮当年御給により美作少目に任ずるの記載あり。〔「大間」第一「当年給」〕
			下毛野近季〔一〕	在：白河上皇隨身。〔「中右」嘉保2・4・19〕		
			下毛野近季〔一〕	在：白河上皇隨身。〔「近末」につくる。〔「中右」永長1・1・11〕／陸奥御馬使に任ず。〔師通〕同1・3・25〕／陸奥御馬交易使に任ず。〔時範〕同1・3・29〕／御馬使。〔「中右」同1・4・7〕		
永長元年 (1096)	紀清任〔一〕	在：穢所より本陣に向かうにより過状を提出。〔時範〕永長1・3・14〕	下毛野近季〔一〕	在：陸奥御馬交易使。〔「中右」承徳1・①・28〕		
承徳元年 (1097)	紀カ清任〔一〕	在：〔「中右」承徳1・2・3〕	下毛野近季〔一〕			
承徳2年 (1098)			兼兼方〔正六位上〕	任：将曹低任を申し任ず。〔「魚魯」巻第二「諸司」〕／〔「大間」第八「転任」〕	下毛野近季〔一〕	在：〔「中右」承徳2・7・20〕
			大松惟季〔正六位上〕	任：本府旁により将曹に転任する。〔「魚魯」巻第二「諸司」〕／〔「大間」第八「転任」〕		
康和元年 (1099)					兼兼方〔一〕	在：右近か。〔時範〕康和1・4・24〕
康和2年 (1100)			身入部武近〔正六位上〕	任カ：府生旁により右近将曹に任ずるか。〔武近当職之旁三十八年〕とあり。〔朝群抄〕		
	小部正清〔一〕	在：〔「中右」康和2・3・9〕	兼兼方〔一〕	在：〔「中右」康和4・1・2〕／〔「腰腰」同4・⑤・15〕		

康和4年 (102)	泰近行 〔一〕	在：「老公」,「年六旬」。上藏。〔『殿暦』,「中右」康和4・㊦・15〕	多忠方 〔一〕	在：〔『殿暦』康和4・3・24,「中右」同4・7・21〕/「右近将曹」。〔中郡』第二九諸寺供養〕		
			下毛野近季 〔一〕	在：「近來」につくる。白河上皇隨身。白河上皇の定めにより右近将曹より左に渡る。〔『殿暦』,「中右」康和4・㊦・15〕/「実非御隨身候召次所」。〔中右』康和4・4・28〕		
康和5年 (103)	豊原時元 〔正六位上〕	任：任大將の時、府生より将曹に任ず。〔「中右」,「世系」康和5・12・21,「殿暦」同5・12・22〕	身入部武近 〔一〕	在：〔「膳部」康和五年正月十八日〕/〔「為房」康和5・8・17〕	泰兼方 〔一〕	在：人長。右近か。〔「中右」康和5・11・5,「殿暦」同5・11・28〕
	輕部季友 〔一〕	在：〔「膳部」康和五年正月十八日〕/〔「為房」康和5・8・17〕				
長治元年 (104)	泰近行 〔一〕	在：〔「中右」長治1・4・17〕	多忠方 〔一〕	在：〔「中右」長治1・1・3〕		
			泰兼方 〔一〕	在：人長。〔『殿暦』,「中右」長治1・4・17〕		
長治2年 (105)			多忠方 〔一〕	在：〔「中右」,「采昌」長治2・1・5〕		
			下毛野近季 〔一〕	在：「近來」につくる。〔「院候者」,〔「中右」長治2・4・17,4・23〕/白河上皇隨身か。〔「雅実」同2・8・12〕	泰兼方 〔一〕	在：〔「中右」長治2・4・17〕
嘉承元年 (106)	下毛野近季 〔一〕	在：〔「采昌」嘉承1・7・27〕	泰兼方 〔一〕	在：〔「中右」,「采昌」嘉承1・4・24〕/人長。〔「采昌」同1・12・15,「中右」同1・12・16〕		
	小部正清 〔一〕	在：〔「中右」嘉承1・12・16〕	山村助高 〔一〕	在：〔「采昌」嘉承1・12・16〕		
嘉承2年 (107)			多忠方 〔一〕	在：〔同上〕		
	下毛野近季 〔一〕	在：「近來」につくる。〔「院將曹」,〔「中右」,「采昌」嘉承2・4・17,「殿暦」同2・4・26〕/「右近将監」。〔「殿暦」同2・4・10〕	泰兼方 〔一〕	在：「命余七十」。〔「中右」,「采昌」嘉承2・4・16〕/「以六位自解任将曹」。年不詳。〔「魚徳」別録卷第七「次任衛府者」〕		
天仁元年 (108)			多忠方 〔一〕	在：〔「中右」,「長秋」嘉承2・1・3〕		
	下毛野近季 〔一〕	在：「近來」につくる。〔「中右」天仁1・10・15〕/白河上皇隨身。〔「殿暦」同1・4・3〕/「院候者」。〔「中右」同1・11・3〕/舞師。〔「右近将曹」,〔「殿暦」,「中右」同1・11・28〕	多忠方 〔一〕	在：〔「中右」天仁1・12・19〕		
天仁2年 (109)	豊原時元 〔一〕	在：〔「殿暦」天仁1・11・18〕				
			下毛野近季 〔一〕	在：「左近末将監」とあり。隨身。〔「殿暦」天仁2・8・2〕/「右近将曹」。〔「殿暦」同2・9・6〕		
			泰兼方 〔一〕	在：「府者」。〔「右兼方将監」,〔「殿暦」天仁2・8・2〕/「右近将曹」,〔「殿暦」同2・9・6〕		